

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號三第 卷二十三第

行發日一月三年六和昭

## 論叢

所得稅の不公平……………法學博士 神戸 正雄  
 利子の形成について……………文學博士 高田 保馬  
 數學的經濟學の論理的構造の批判……………文學博士 米田庄太郎

## 說苑

正米相場と期米相場との異動關係……………經濟學士 谷口 吉彦  
 金爲替準備に就いて……………經濟學士 松岡 孝兒  
 アメリカ經濟の發達と移民の消長……………經濟學士 堀江 保藏  
 獨逸中工業金融機關とIndustrieschaft……………經濟學士 楠見 一正

## 雜錄

幕末の株仲間再興是非……………經濟學博士 本庄 榮治郎  
 明治初年に於ける侍階級の騷擾……………經濟學博士 黒 正 巖  
 舊派統計學の一著作……………經濟學士 蜷 川 虎三  
 日本都市年鑑を讀む……………經濟學博士 汐見 三郎

## 附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

(禁轉載)

## アメリカ經濟の發達と移民の消長

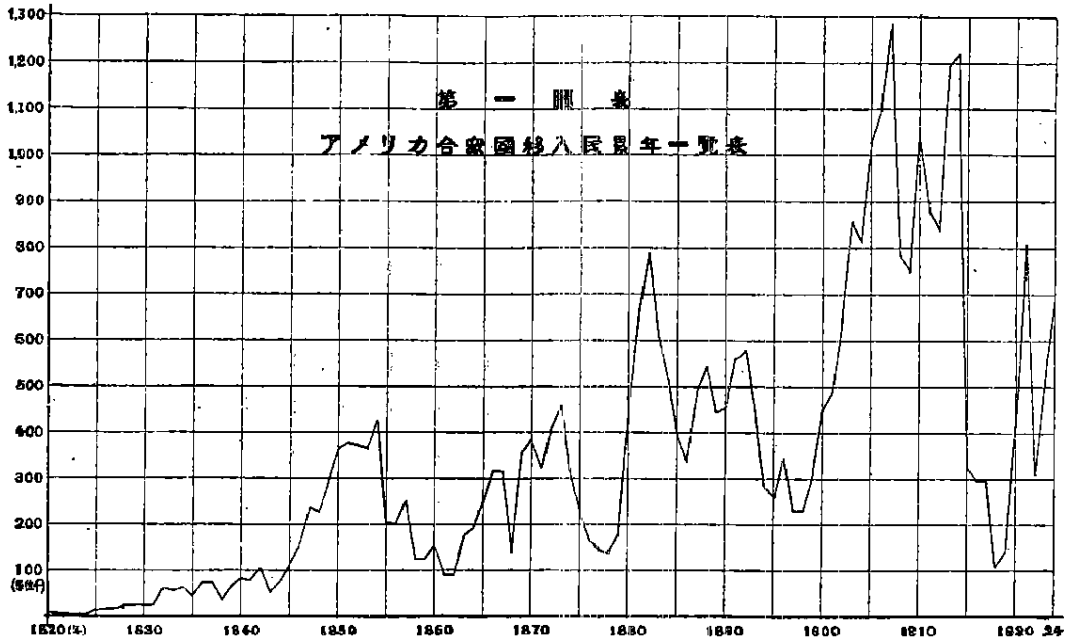
堀江保藏

### 一、序 言

移民なる語は今日普通、國際移民の義に用ひられてゐる。移民現象は、經濟的・社會的・政治的・宗教的等諸々の原因によつて生ずるのであつて、此等の事情にして國際間に不均衡の存する場合、比較的壓迫の重い國より軽い國へ移住が行はれるのを見る。其内最も有力なのは經濟的原因であらう。即ち或國に於ては産業が行詰に逢着して増加人口を吸収する餘地少きに拘らず、他國に於ては産業が發展の途上にあり、而も自國人口の自然増加のみによつては必要なる勞働力を得ること能はざるが如き場合に、最も顯著なる移民現象が起るやうに思はれる。

更に移民現象の効果を經濟的に見れば、送民國に對しては、失業人口の緩和に役立ち、製品の受民國への輸出を増し、移民の送金によつて貿易外受取勘定を有利ならしむる等種々の利益があり、受民國に對しては、各種産業の發達に必要な勞働力を給し、又消費者即ち購買力の増加となつて生産を刺激する等の利益がある。

されば各國間に經濟狀態の不均衡が存續する限り移民現象は繼續するものと考へらるべく、宗



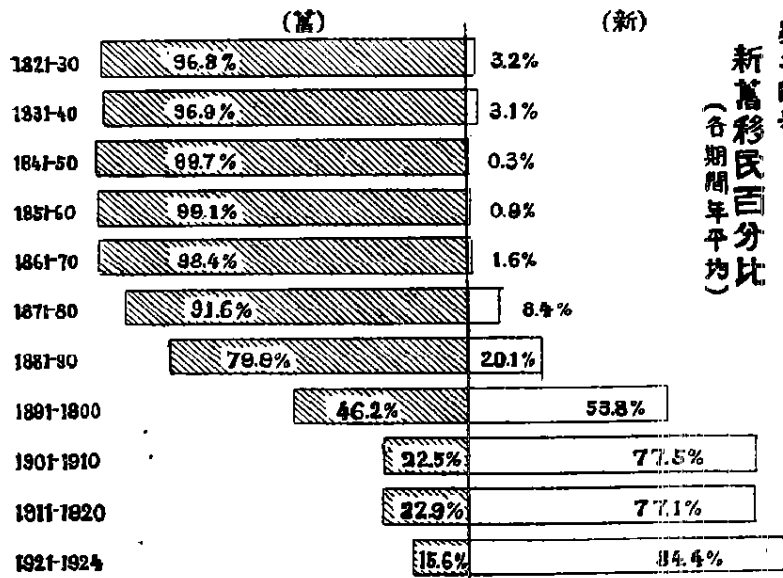
教的・人種的其他の理由に基く移民の制限乃至禁止は、かゝる經濟状態の不均衡が著しく緩和された場合初めて意義を持つであらう。過去一世紀に亘る米國移民の現象はかゝる見解の一例を供するが如くに思はれる。以下特に歐洲諸國よりの米國移民の消長を見よう。

## 二、米國移民と歐洲諸國の事情

近世國家の成立以後最も著大なる移民現象は、歐洲諸國民の米國移住に於て見られる。米國自身既に歐洲の移住民によつて成立した國であるが、獨立後其特殊な經濟事情——領土の激増・天然資源の豊富——人種的・宗教的・政治的事情よりして更に大なる移民を吸収した。國初數十年間は移民に關する統計を缺き、僅かに一七八九年より一八二〇年に至る三十餘年間の移民を約二三四、〇〇〇人と

見積らるゝ程度に過ぎないが、<sup>1)</sup>其後逐年増加の趨勢にある事は第一圖表によつて覗ふ事が出来る。而て時に此趨勢に中斷あるは主として米國の政治的經濟的事情に基くものであつて、例へば一八六〇年の南北戦争、一九一四年の世界大戰は政治的原因として、一八三七・一八七三・一八八四・一八九三・一九〇七各年の恐慌は經濟的原因として夫々移民の減少を伴つてゐる。

此の米國移民の大部分は歐洲諸國より來航せるものである。亞細亞その他の移民は數字上より見れば微々たるものに過ぎない。然し同一歐洲移民でも引續き同一の質を有するわけではない。即ち一八八〇年代を境として主要送民國に著しき交替を見たのであつて、普通同年代以前に主要なる役割を演じた英國・獨逸・佛蘭西・瑞典・諾威・白耳義等西部及北部ヨーロッパ諸國の移民を舊移民(Old immigrants)と呼ぶに對し、同年代以後之に代れる露西亞・伊太利・奧匈國・西班牙・葡萄牙・バルカン諸國等東部及南部ヨーロッパの移民を新移民(new immigrants)と呼んでゐる。此の新舊移民の交替狀況は第二圖表によつて概觀し得るところであり、その詳細は次の「新舊移民各國別表」<sup>2)</sup>によつて示されてゐる。以下主要數ヶ國につきその移住事情を略述しよう。



1) Bogart, E. L.; Economic History of the American People. p. 419.  
 2) 資料: Willcox; W. F.; International Migrations, vol. 1 Statistics. pp. 377-393.  
 3) 資料: Department of Commerce; Statistical Abstract of the U. S. No. 47. p. 76.

新舊移民各國別表

	1821— 1830	1831— 1840	1841— 1850	1851— 1860	1861— 1870	1871— 1880	1881— 1890	1891— 1900	1901— 1910	1911— 1920
舊移民										
ベルギー	27	22	5,074	4,738	6,734	7,221	20,174	18,167	41,635	33,746
デンマーク	169	1,063	539	3,749	17,094	31,771	88,132	50,231	65,285	41,983
フランス	8,497	45,575	77,262	76,358	35,984	72,201	50,463	30,770	73,379	61,897
ドイツ	6,761	152,454	434,626	951,667	787,468	718,182	1,452,970	505,152	341,498	143,945
オランダ	1,078	1,412	8,251	10,789	9,102	16,541	53,701	26,758	43,262	43,718
ノルウェー	91	1,201	13,903	20,931	109,298	95,322	176,586	95,014	190,505	66,395
スウェーデン	3,226	4,821	4,644	25,011	23,286	115,922	391,776	226,266	249,534	95,074
スペイン	5,226	4,821	4,644	25,011	23,286	28,293	81,988	31,179	34,922	23,091
イギリス	75,862	283,191	1,047,765	1,338,693	1,642,674	984,914	1,462,839	639,954	835,915	487,539
計	95,652	489,739	1,592,062	2,431,336	2,031,640	2,070,368	3,778,629	1,643,491	1,910,035	997,438
新移民										
オーストリア					7,800	72,969	353,722	592,707	2,145,266	896,342
ハンガリー							2,053	15,979	167,519	184,201
ギリシャ										
イタリア	438	2,253	1,870	9,231	11,728	55,762	307,310	651,893	2,045,877	1,109,524
ルーマニア							5,938	12,750	53,008	13,311
ロシア	91	646	656	1,621	4,536	52,254	265,089	602,011	1,597,306	921,957
フィンランド							4,418	8,731	27,935	68,611
スペイン	2,632	2,954	2,759	10,353	8,493	5,266	11,917	27,323	69,149	89,732
ポルトガル						4,627	1,185	3,786	119,256	77,210
欧トルコ										
計	3,151	5,853	5,285	21,205	32,557	190,878	951,632	1,915,180	6,225,316	3,360,888

其 他	23	96	155	116	210	658	1,346	122	665	18,236
總 計	98,816	405,688	1,597,502	2,452,657	2,064,407	2,261,904	4,731,697	3,558,793	8,136,016	4,376,564

(イ) 舊移民 舊移民中主なるものは英國及獨逸移民である。先づ英國に就て見るに、一八三〇年代の産業の不況は多數の英蘭人を米國に送つたが、然し英國移民の大部をなすものは愛蘭人である。彼等は被征服民族として多くは英蘭の大地主の下に小作を營み、馬鈴薯を常食とするに至るまで誅求せられてゐた。其上人口増加率も他の歐洲諸國に比して甚だ高く、生活困窮の爲め早くより多數の移民を送つてゐたが、偶々一八四六年未曾有の馬鈴薯饑饉に襲はれ、其結果移民激増し、同年以後五年間に百二十五萬の愛蘭人が國土を離れたと稱せられる。其の米國に移住せし數字を掲ぐれば左の如くである<sup>5)</sup>。

年 度	一八四三	一八四四	一八四五	一八四六	一八四七	一八四八	一八四九	一八五〇	一八五一	一八五二	一八五三	一八五四	一八五五
全英國移民	二八,000	四七,八三三	六四,〇三二	七三,九三三	二八,八八八	一八六,〇九二	二四,五三〇	二五,〇八九	二七,七四〇	二〇〇,二四九	一〇〇,二三五	一〇〇,一三三	一〇〇,一三三
愛蘭移民	一九,六七〇	三三,四九〇	四四,八三二	五二,七五二	二〇,五三六	一三三,九三四	一五六,五九八	一六四,〇〇四	一三三,二二五	一五九,五八八	一三二,六四九	一〇二,六〇六	一〇二,六〇六
比 率	七〇・〇	七〇・〇	七〇・〇	六六・九	八〇・一	七三・二	七三・三	七六・二	八二・八	九一・六	八二・三	九三・四	九三・四

備考—一八四三年は一月乃至九月、一八四四乃至四九年は十月乃至翌年九月、一八五〇年は十月乃至翌年十二月、一八五一年以後は一月乃至十二月の數字である。尙ほ英國移民は、英蘭・蘇格蘭・ウエールズ・アイルランド・及所屬不明の五種に分類せられ、最後のものはアイルランドに次で多數に上つてゐるが、恐らくその内アイルランドに屬すべきものも少なくないであらう。

其大部分が貧窮民であつた事はいふ迄もなく、輸送機關の不備なりし當時に於てかく多數の移民を送り得たのは、愛蘭政府及教區等が助力せしによるといはれてゐる。

4) Commons, J. R.: Race and Immigrants in America, pp. 64, 65.  
 5) 資料: Willcox; ibid. p. 380.

次に獨逸移民に就て見るに、一八五四年及一八八二年の兩度に其極限に達してゐる。即左の如くである。<sup>6)</sup>

年 度	一八五一	一八五二	一八五三	一八五四	一八五五	一八七九	一八八〇	一八八一	一八八二	一八八三	一八八四
獨逸移民	七三、四八二	二四、九一八	一四、九四三	二五、〇〇九	七、九一八	三四、六〇三	八四、六八二	二〇、四八五	二五、〇三〇	一九四、七六六	七九、六七六
歐洲全移民に對する割合	一九・九	四・二	三・九	五・〇	三・三	二五・七	四三・三	三九・八	三六・七	三七・三	三九・八

備考—一八五一乃至五五年は一月乃至十二月、一八七九年以後は七月乃至翌年六月の數字である。

獨逸移民は直接的には政治的原因に基く。一八四八年の革命に依て其專制君主政體は倒れたが、其後の反動政治に嫌らざる國民は自由の天地を米國に求めて續々移住した。これ一八五〇年代の移民である。一八〇〇年前後の移民には佛・澳との戦争の軍役を免れんが爲めに國土を離れた農民が多い。然し其の根本には彼等が地主の搾取に呻吟してゐた事を忘れてはならない。

以上の英國及獨逸を主とする舊移民が一八八〇年代に至つて減少し初めた所以は、後述する如く米國に於て、彼等が主たる目的とする土地獲得の機會の消滅にもよるが、他方本國に於ける經濟狀態の變化は更に有力なる原因をなしてゐる。例へば英國に於ては濠洲・加奈陀・ニュージールラ等の植民地が發達して此處へ移住者を吸収せる事、特に愛蘭に於ては種々の土地法が制定せられて苛酷なる小作狀態は緩和せられ、土地の獲得が容易になつた事、獨逸に於ては普佛戦争後工業著しく發達して困窮農民を勞働者として吸収した事等がそれである。<sup>8)</sup>

(ロ)新移民 新移民の首位を占むるものは、前掲移民表によつて明かなる如く伊太利人であつて、其大部分は南部伊太利及シシリ島の農民である。此等の地方は主に貴族である地主の勢

6) 資料 : Willcox ; ibid. pp. 385—386.

7) Commons ; ibid. p. 68.

8) National Industrial Conference Board ; Immigration Problem in the U. S. p. 18.

力最も強大にして、地代は高く而も借地は短期間に限られて居た。又大農經營の下に備はるる農業労働者も其賃銀は他の歐洲諸國と比較にならぬ程低かつた。他方複雑なる關稅制度、高率の消費税の爲に農民階級の負擔は貴族階級に比して甚だ重かつた。加之伊太利は有數の人口増加率の高い國である。此等の經濟的壓迫が彼等を驅つて米國に移住せしめたのである。<sup>9)</sup>

次に埃匈國に就て見るに、愛蘭と同様異人種による經濟的壓迫が移民の主要なる原因をなしてゐる。此國を構成する人種はゲルマン・スラヴ・ラティン・マチャール・ユダヤ等であつて、其各々が占むる勢力は國內各地に於て様々であり、又各種族も夫々細分せられて勢力關係を異にして居たが、大體に於てスラヴ人種が最も劣勢であつた。例へば國の中央平原地方のスラヴはゲルマン及マチャール地主の下に小作を營んで南部伊太利の農民同様の境遇にあり、又ポーランドのスラヴ農民はユダヤ人の高利に苦しめられたが如きそれである。かくて埃匈國移民の主要部分<sup>10)</sup>はスラヴ農民であり、彼等の主たる目的はやはり土地の獲得にあつたのである。

次に露西亞の移民を見るに、此處ではその九八パーセントまでが露西亞人でない事が其特徴である。露西亞農民は恐らく諸國農民中、貴族階級より受けし壓迫最も甚だしかつたであらう。農奴制度より解放せられたのは漸く一八六一年であるのみならず、解放後も土地の獲得は極めて困難であつて、或は共產制的農法により、或は地主に對する債務と從屬關係とにより移住の自由を束縛せられ、唯一の可能なる移住は政府の命によつてシベリヤへ赴く事であつた。かくて新移民中に重要な地位を占むる露西亞移民が露西亞人に非ずしてユダヤ人・ポーランド人・フィン人等

9) Commons; *ibid.* p. 70. ff.

10) Commons; *ibid.* p. 79. ff.



より成る次第である。就中ユダヤ人最も多く、現在合衆國にあるユダヤ人の六分の五を占むるといはれてゐる。其移住の原因は露西亞農民及政府の壓迫にある。即ち農民は彼等の不遇の直接的原因をユダヤ人に歸して一八八一年に突如セム種族排斥運動を起し、政府も亦之を援助した。豫てより侮蔑待遇に苦しめるユダヤ人は之を機會に續々米國に移住し初めた<sup>11)</sup>。フィン人・ポーランド人も人種關係よりして露西亞政府の專制政治下に經濟的壓迫を加へられしたため移住を企てしものである。

右の如く歐洲諸國の米國移民は、一八八〇年代を境として主要送民國に著しき交替を見た。此交替は夫等諸國に於ける經濟發達の時間的相違に起因するが如くである。即ち北部及西部ヨーロッパに於て封建的な農民搾取の終焉せる頃、南部及東部ヨーロッパに於て之が表面的になつたのである。されば新舊移民を通じて職業別に大差なく、所謂不熟練労働者である下級農民が大部分を占めてゐることは左表の示すところである<sup>12)</sup>。

年 度	一八六一—一八七〇	一八七一—一八八〇	一八八一—一八九〇	一八九一—一九〇〇	一九〇一—一九一〇
自由職業	〇・八	一・四	一・一	〇・九	一・五
熟練労働者	二四・〇	三三・一	二四・〇	二〇・一	二〇・二
農業者	一七・六	一八・二	一四・〇	二一・四	二四・三
不熟練労働者	四・四	四・九	五・二	四七・〇	三四・八
僕 婢	七・二	七・七	九・四	二五・一	一四・一
其 他	八・〇	七・七	九・四	五・五	五・一
計	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

11) Commons; *ibid.* p. 87. ff.

12) Hourwick, J. A.; *Immigration and Labour.* p. 67.

### 三、アメリカ經濟の發達と移民

以上は送民國に於ける移住事情であるが、何故に彼等が主として米國に來航せしやは米國側の事情に就て見なければならぬ。今其主なるものを擧ぐれば、土地獲得の機會多きこと及強烈なる勞働力の需要之れである。

合衆國は其人口に比して頗る廣大なる領土を獲得した。植民地時代既に英國は、セントローレンス河以南ミシシッピ河以東の地(西班牙領フロリダを除く)より佛蘭の勢力を驅逐して完全に主權を收めて居たが、此の主權は米國の獨立と同時に同國に繼承せられた。その後一八〇三年にミシシッピ河の西に横はるルイジャナの地を佛蘭西より購入せるを手始めに、フロリダ、テキサス其他を或は購入し或は割讓を受け、既に南北戰爭以前に現在の本土を悉く領有し、其面積三百萬平方哩餘に及んだ。アラスカ、ハワイ、フィリッピン、ポルトリコ等を併せたのは夫以後の事に屬するが、此の廣大なる領土が概ね未開發のまゝにして而も天然資源に富んでゐた事は、直接的には豊富なる土地獲得の機會を作る事により、間接的には産業の發展を促す事により、移民來航の有力なる刺激物となつたのである。

次に強烈なる勞働力の需要は急速なる産業の發展に基く所である。米國の産業は凡そ、國初以來一八八〇年代までの農業時代、夫以後の工業時代の二つに分つ事が出来る。米國の工場制度は十九世紀の初頭より徐々に生長しつゝあつた。而て南北戰爭の結果種々有利なる條件を得て急速

なる發展を見たが、一八八〇年代迄は農業が尙ほ國富の主要資源であつた。即ち此頃まで土地獲得の機會存續し、生産の主力は農業に向けられてゐたのである。然るに一八九〇年には工業生産物の價格は遂に農業生産物の價格を凌駕し、工場製品が一般に用ひらるゝに至り所謂工業時代を出現した。<sup>13)</sup>米國が工業時代に入つたことは世界經濟に重大なる影響を及ぼした事實であるが、それはさておき、此の農業時代より工業時代への轉換が偶々先述の新舊移民の交替と時を同じうしたのである。依て便宜上此二つの時代につき夫々産業と移民との關係を略述しよう。

## 一、農業時代の移民

(イ)移民と産業 移民の一部は、此時代のみならず米國の經濟史を最も特色づける西部の開發、所謂西漸運動 (westward movement) に従つた。此の運動は獨立十三州の西に横はる未開地の穀物農地としての開發を主眼とするものである。土地の獲得所有が當時の人々の最大關心事であつた事、政府が種々の保護立法によつて西部の開發を奨励した事、南部の棉栽培地が發展するにつれ穀物の需要増加せる事等が、人々を驅つて此開發に赴かした主なる原因であつて、既に人口の稠密せる東部の農民が此運動に従つた事は當然である。或場合には全村の西部移住も行はれた。<sup>14)</sup>かくて此時代の終りまでに順次、アレガニー山脈、ミシシッピ河、ロッキーマウンテンを越えて遂に太平洋岸に達するまで開發せられたのである。移民も亦此運動に従つた事は彼等の大部分が本國に於ける苦境を脱し土地を求めて來航せる農民である當然の結果である。既に一八三三年には十一艘の蒸汽船が四萬三千人の移民をバッファローから西部へ運んだといふ。<sup>15)</sup>然し開發の最先

13) Faulkner, H. U.; Economic History of the U. S. p. 162. ff.

14) Warne, F. J.; Immigrant Invasion. p. 71.

15) McMaster, J. B.; A History of the People of the U. S. Vol. VIII. p. 192.

端に立つものはやはりアメリカ人であつて、移民はその跡を追つたに過ぎなかつた。而て主に之に従事せるものは英蘭人及獨逸人であつて特に後者に著しい。此移民の西漸運動が年と共に盛んになつた事は左の移民分布表<sup>16)</sup>によつて略々視ふ事が出来る。

	一八五〇年	一八六〇	一八七〇	一八八〇
外國生れ總人口	二,二四〇 <small>千人</small>	四,一八八	五,五七七	六,六八〇
北大西洋地方諸州	一,三〇四	二,〇三三	二,五二二	二,八二五
北中部地方諸州	六四二	一,五四四	二,三三三	二,九二七
南部諸州	三三〇	三三三	三三三	三三三

移民の一部は又東部に於て農業或は道路・運河・鐵道の建設に従事した。之には特に愛蘭人が多い。彼等が英蘭人・獨逸人と西漸運動を共にする事の少かつた所以は、自發的移民といふよりも寧ろ政府・教區等の手で棄民的に送られたものが多かつたからであらう。されば嫌惡の眼を以て見られた事も少くないが然し、彼等の存在が東部の産業殊に交通土木事業に必要な勞働力を提供せし事は疑ふべからざる所であつて、後には西部の此種の事業にも需要せられ、一八五〇年迄にインディアナ、イリノイ、ミシガンの三州に五萬三千人の愛蘭人が散在したといふ。<sup>17)</sup>

移民の更に一部分は東部に止つて工業勞働者となつた。本期のアメリカ人口は二十五年間に二倍といふ著大なる自然増加率を示したが、西漸運動の進展に伴ひ増加は擴散に及ばず、必要な勞働力を得る爲にはやはり少からず移民に負はねばならなかつた。ボガートはいふ、『移民による著しき人口増加なかりせば本期(一八六〇—一八八〇)の工業の發展はかくまで急速に行はれなかつたであ

16) Warne; *ibid.* p. 85.

17) Warne; *ibid.* p. 78.

らう。何故ならば西部の開発は數多のアメリカ人を運去つて労働の供給にギャップを残し、而て此ギャップは移民によつて充されなかつたならば工業の發達を抑止したに違ひないからである』<sup>18)</sup>と。

棉花栽培地である南部に於ては奴隷労働によつて大農經營が行はれて居り、最早移民吸収の餘地はなかつたが、東部及西部に於ては以上の如く移民の貢献は少からざるものがあつた。之には例へば賃銀の低廉とか、雇主に従順であるとか種々の理由もあるが、最も通有な、最も根本的な事は、移民が大部分働き盛りの年齢にある事、女子に比して男子の著しく多い事これであつて、その數字を擧ぐれば次の如く、<sup>19)</sup>即ち米國は養育費を要せずして働盛りの働き手を得る事が出來た道理である。

年	一八二〇	一八三〇	一八四〇	一八五〇	一八六〇	一八七〇	一八八〇
十五歳以下	二二・八	二一・六	二〇・六	二〇・〇	一九・九	一九・〇	一九・一
十五乃至四十歳	五八・八	五五・六	五七・七	五九・一	七四・五	六四・八	七二・六
四十歳以上	一四・七	四・七	八・二	八・九	九・四	二二・二	九・三
不詳	一四・七	五・一	〇・五	三・〇	〇・二	—	—

備考——本表は米國全移民に關するものである。歐洲移民のみに關しては男女別統計しか求められぬため、已むを得ず之を採つた。

(ロ) 移民に對する米國の態度<sup>20)</sup> 移民に關する最初の法律は一七八九年に制定せられた。然し之は移民の取締よりも寧ろ米國に危害を生ぜしむる惧れある外國人の追放を目的とせるものである。又一八一九年の法律は來航者の輸送状態の改善を目的とし、移民の優遇を講ぜしものである。

18) Bogart, E. L.; Economic History of the U. S. pp. 474, 475.

19) 資料: Willcox; ibid. pp. 395—398.

20) National Industrial Conference Board; ibid. p. 55. ff.

Jenks, J. W. and Lauck, W. J.; The Immigration Problem. p. 366. ff.

る。兩者共に船長をして來航者に關する記録を作製せしめ、之が基礎となつて移民統計が生ずるに至りし事は注目に値する。一八三〇年代、カトリック教徒なる愛蘭移民の増加するに及んで反カトリック運動が起つた。その目的は外國特に愛蘭の貧窮民や犯罪人を排斥するにあり、一八五五年奴隸問題の起るまで猛烈に繼續せられたが、政府は只に傍觀的態度をとりしのみならず、一八四七・四八年には法律を以て下級船客輸送状態の改善を計つてゐる。更に南北戦争後の勞働不足を緩和するため、議會は契約勞働(移住後一ヶ年を越えざる期間の勞賃を擔保として渡航費の前貸を受け移住勞働すること)を認め、之に基いて紐育市に移民署を置いて移民の便宜に資した。此法律は一八六八年に廢止せられ、又一八六六年には犯罪人の投賣場として米國を利用せざるやう各國政府に抗議してゐるが、本期に於て如何に移民が歓迎せられたかは以上の諸法律によつて窺はれる。更に一八六三年に大統領リンカンが『國富及國力の此資源は暴動(南北戦争——筆者)勃發前數年間よりも遙に豊富に湧出しつゝあるも、尙あらゆる産業部門、特に農業・鑛業(鐵・石炭・貴金屬)に於ては勞働者の缺乏が甚しい。勞働の需要斯の如く増加せるにも拘らず、他邦に於ては職を失へる數萬の人間が我領事館に押寄せ、必要な然し極めて低廉なる援助さへあるならば米國に移住せんことを訴へてゐる』<sup>21)</sup>といへる如く、移民勞働力の増加は各種産業の齊しく希望する所であつて、特にウイスクオンシン其他の西部諸州は移民局を設けて積極的に移民誘致策を講じた。<sup>22)</sup>

## 二、工業時代の移民

### (イ)工業の發展と移民

前述の如く合衆國の工業は南北戦争以後隆盛に赴き、一八八〇年代

21) Waerne; *ibid.* p. 83.

22) Bogart, E. L.; *Economic History of the U. S.* p. 474.

に入つて農業を凌駕し工業時代を出現した。その基礎は勿論豊富なる鐵・石炭にある。而て之を刺激せるものは第一に、棉花栽培地として又穀物農地として夫々發展せる南部及西部が、工業製品を東部に需めた事之れであつて、所謂 industrial sectionalism が形成せられたのである。第二は高率の保護關稅である。南北戦争は關稅を環る南部棉花栽培地と北部工業地との抗爭とも見るを得べく、勝利を得た北部は政府を動かして恣に關稅を引上げ、米國をして世界有數の高率關稅國たらしめた。第三は豊富なる勞働力の供給である。此事は都市人口の占むる割合及其趨勢によつて略々窺ふ事が出来る。即ち左の如くであつて、最初の二地方は特に工業地として重きをなせるものである。

地 方	一八九〇年	一九〇〇	一九一〇	一九二〇
ニューイングランド	七五・八	七三・五	七六・三	七九・二
ミッドウトラント	五七・七	六五・二	七一・〇	七四・九
イーストノースセントラル	三七・八	四五・二	五三・七	六〇・八
ウエストノースセントラル	二五・八	二八・五	三三・三	三七・七
サウスアトランティック	一九・五	二二・四	二五・四	三一・〇
イーストサウスセントラル	二二・七	一五・〇	一八・七	二三・四
ウエストサウスセントラル	一五・一	一六・二	二三・三	二九・〇
マウンテン	二九・三	三三・三	三六・〇	三六・四
パシフィック	四三・五	四六・四	五三・八	六二・四

備考——人口二千五百人以上を有するものを都市とす。

此勞働力は勿論人口の自然増加その他に負ふ所が少くないが、左表に見らるるが如く、一八八

23) 資料 : Department of Commerce ; Statistical Abstract of the U. S. No. 39. p. 51. No. 47. p. 39.  
 24) Warne ; ibid. p. 122.

○年を境として再び移民の東部に増加するの傾向あるは、移民勞働力の供給も亦蔑視すべからざるものなる事を示すであらう。

	一八〇年	一八六〇	一九〇〇	一九二〇
外國生れ總人口	六、六八〇 <small>千人</small>	九、二五〇	一〇、七、三四一	一三、五、二六六
北大西洋地方諸州	三、八二五	三、八八八	四、七六一	六、六七六
北中部地方諸州	二、九二七	四、〇六〇	四、一五六	四、六九〇

本期に於ける此等の移民は主として伊太利・埃匈國・露西亞等より來航せる所謂新移民であつても舊移民同様大部分農民より成ることは既に述べた。農民にしてよく工業勞働者となり得た事情は、第一米國に於て所謂邊境が消滅し (end of frontier)、新移民は來航の目的たる土地獲得の餘地を與へられなかつた事之れである。彼等が農民と稱せらるるも純粹のものに非ずして半農半工の民であつた事は其二である。之は新移民の大部分に就て當條るのであつて、移民の職業別統計に示さるるよりも遙かに多くの工業者分子が含まれてゐたのである。<sup>25)</sup> 第三は米國の工業が大規模經營の下に高度の分業を行へる事である。國初以來勞働力の不足は各種産業の大規模經營を促進し、捉はるべき中世的傳統少き事は分業を容易ならしめたが、工業に於ても之に洩れず、言語風習を異にする新移民も直ちに之に参加し得たのである。

更に前期に做つて本期移民の年齢別・性別を掲げ以て勞働力供給者として如何に重要性を有せしやを示さう。<sup>26)</sup>

25) Warne; *ibid.* pp. 129—133.

26) 資料: Willcox; *ibid.* pp. 395—398



年	一八八〇	一八九〇	一九〇〇	一九一〇	一九二〇
十五歳以下	一九・一%	一九・〇	二二・二	二二・五	一九・一
十五乃至四十歳	七二・六	六九・二	四四乃至四十四歳	八三・六	八三・四
四十歳以上	九・三	二・八	四十四歳以上	五・五	五・一
年	一八八〇	一九〇〇	一九一〇	一九二〇	
男	六二・六%	六三・三	六六・五	六九・八	五八・二
女	八・	三三・七	三三・五	三〇・二	四二・八

備考——一〇七頁の表に同じ。

(ロ) 移民に對する米國の態度<sup>27)</sup> 前期に於ても既に好ましからざる分子の入國を禁止するが如き態度の見えし事は前述の通りであるが、本期に入つてはそれが二三の法律となつて現はれた。即一八八二年の移民法は、上陸地に於ける移民取扱費用に充つる目的を以て一人當り五十七セントの頭別税を課し以て移民を制限せんとし、且つ刑事被告人・風癩白痴其他米國の負擔となるべき者の入國を禁じた。其後一八九一・一九〇三・一九〇七・一九一〇各年の移民法によつて、或は頭別税が四弗にまで引上げられ、或は入國禁止者の種類は次第に擴張せられて多妻所有者・天刑病者・生計を立つる能力なき者・性業婦等に及んだ。その他大統領のヴェトに逢つたが、讀書検査 (literacy test) によつて移民を制限せんとする法律が一八九六・一九一〇年の二回に亘つて議會を通過して居る。米國に斯の如き態度の著しくなつた所以は、風俗・言語・宗教を異にする新移民が増加して移民の同化が困難となつた事にも存するが、移民労働者の賃銀が概して低廉なる爲め米國労働者の賃銀に影響を及ぼし、生活程度を低下せしむるの傾向ありしことも數へねばな

27) National Industrial Conference Board; *ibid.* p. 58. ff. Jenks and Lauck; *ibid.* p. 375. ff.

らぬ。實に以上の制限的移民法の通過は多く労働組合の要求に基くとも稱せられてゐる。<sup>28)</sup>而てこの労働組合の意志が資本金にも受入れられた所以は、技術の高級化に伴ふ能率高き米國労働者の次第に有利となつて來た事に存するのであらう。

以上の如き種々の理由から移民に對して制限的態度の執らるゝに至りし事は、労働力の需要亦昔日の如くならざる事を示してゐる。而も成法となつて現はれしものは尙ほ米國の負擔となるべき種類の移民を禁止するに止まりし事は、米國の産業が引續き移民の労働力を需要せし事を物語るものであらう。

#### 四、餘 論

以上、歐洲諸國と米國との經濟狀態の比較を中心として、世界大戰前約一世紀に亘る米國移民の消長を概觀した。考察の便宜上米國産業の發達を二期に分つて述べたが、要するに、農業時代といひ工業時代といひ、合衆國はまさに産業發展の途上にあり、その齊しく労働力を渴望せしや上述するところによつて明かである。されば兩時代の交替期に當つて移民の性質も著しく變じたのであるが、新移民は言語・風習の異なる故を以て直ちに排斥的とはならなかつた。

然乍ら工業時代に入つて徐々に移民を制限せんとするが如き氣運の動いて來た事は、労働力が次第に飽和状態に向ひつゝありし事を物語るものといはねばならない。此處に於て新舊移民の別が意味を持つ事となつた。新移民は概して渡り鳥式で、米國に永住する覺悟で渡來する者が少く、且其の素質は悪く、安い勞銀低い生活標準を以て満足するものであるから、年々多數の者が入國することは、米國労働者の勞銀と其の生活標準との向上に頗る不利なる影響を及ぼすであら

28) Bogart; E. L.; Economic History of the American People. p. 605.

う。政治的に觀察しても同様であつて、彼等の間に民主主義とか共和政治とかの何たるかを理解し得る者は甚だ稀である。斯る劣等移民を無制限に入國せしむるときは、彼等を米國に同化することが困難となつて、政治上に由々しき結果を生ずるであらう。従て歐洲移民を米國化して、米國人といふ渾然たる一國民を作るには、移民を入國の際嚴重に選擇して、望ましからぬ移民はどしどし排斥せねばならぬといふこととなつた。<sup>29)</sup>

先づ一九一七年の移民法がそれであつて、一八八二年以來の諸法律に掲げられたる入國無資格者の範圍を擴大せるのみならず、有資格者にも懸案の *Hierarchy test* を課する事となり、更に頭別税を八弗に上げて敍上の目的を到達せんとした。大戰終了後この態度は益々顯著となり、一九二一年五月には歩合制限法 (*Percentum Limit Act* 所謂 *Quota Law*) が制定せられた。之は一九一〇年の國勢調査に基く在米各國人の人口の三パーセントを、一九二一年七月より翌年六月迄の、該國人の入國數最大限とするものである。一面に於て大戰後の重税及生活難を免れんが爲めに氾入すべき歐洲移民の入國、従つて生ずる賃銀の低下失業者の増加を防止せんとするものであるが、他面には新移民の排斥を目的としてゐる。<sup>30)</sup>

此移民法は二ヶ年延長せられた。米國人口の自然増加も甚だ少かつた。にも拘らず工業勞働力は容易に充たされた。之は經濟界が戰後の不況の影響を受けた事にもよるが、原始産業殊に農業に於ける技術進歩のため勞働力に過剰を生ぜしにもよる。<sup>31)</sup> かくて愈々米國の勞働力は飽和せし爲め、一九二四年には一九二一年の暫定的移民法に代ふるに恒久的な現行移民法を以てし、<sup>32)</sup> 移民は益々制限せられ、殊に新移民の排斥が甚だしくなつた。米國市民となることを得ざる外國人に對する入國禁止規定の設けられたのも此の法律である。

29) 末廣博士「米國移民法の改正に就て」(本誌第三十一卷一號. 88. 89頁)

30) Jenks and Lauck: *ibid.* p. 452.

31) Bogart; *Economic History of the American People.* p.569.

32) 詳細は、末廣博士、前掲論文參照。